

令和3年度行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	安全・安心に関するシンクタンク機能の立上げ			担当部局庁	科学技術・イノベーション推進事務局	作成責任者		
事業開始年度	令和2年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官(安全・安心担当)	山下 恭範		
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	内閣府設置法(平11法89)第26条			関係する 計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画 (令和3年3月26日閣議決定) 統合イノベーション戦略2018(平成30年6月15日閣議決定) 統合イノベーション戦略2019(令和元年6月21日閣議決定) 統合イノベーション戦略2020(令和2年7月17日閣議決定) 統合イノベーション戦略2021(令和3年6月18日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2019(令和元年6月21日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2020(令和2年7月17日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2021(令和3年6月18日閣議決定)			
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	本事業は、「国及び国民の安全・安心の確保に向けた科学技術の活用に必要なシンクタンク機能に関する検討結果報告書」(令和3年4月)で示された内容に基づき、シンクタンク機能を立ち上げ、実際に運用することにより、我が国が戦略的に育てるべき安全・安心の確保に係る重要技術や国内外の戦略等の調査検討を進め、もって政府の重要技術等に係る課題の政策決定等に資することを目的としている。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	本事業は、政府の重要技術等に係る課題の政策決定等に資する調査を実施するもので、 ①内閣府から提示する調査分野に対する、国内外の情勢や研究開発動向についての調査分析【広範囲調査分析】②内閣府から提示する個別課題(内閣府が特に政策ニーズが明確であり、重要であると判断する3分野)に対する調査分析【個別調査分析】を行う。 実施にあたっては、安全・安心の確保に係る重要技術等に関する専門性を有する国内外の各機関と連携・協力をを行う。さらに将来のシンクタンク組織の設立を見据え、同組織の人材確保を円滑に行うための示唆を得る観点から、キャリアパスを見越した人材育成に必要なプログラムやカリキュラム等について検討を行う。							
実施方法	委託・請負							
予算額・執行額 (単位:百万円)			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算				28.6	300	803
		補正予算						
		前年度から繰越し						
		翌年度へ繰越し						
		予備費等						
	計		0	0		28.6	300	803
	執行額					10.8		
	執行率 (%)		-	-		38%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		-	-		38%			
令和3・4年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	0	1.4	安全・安心に関するシンクタンク機能の構築について、令和5年度の組織設立に向けた安全・安心に関する重要技術等の調査事業の進捗に伴う調査分析の拡充等に必要経費の増				
	委員等旅費	0	1					
	庁費	0	0.5	新たな成長推進枠:653				
	科学技術振興調査等委託費	300	800					
	計	300	803					

		定量的な目標が設定できない理由	定性的な成果目標と平成30～令和2年度の達成状況・実績					
定量的な成果目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	<p>本件は、国及び国民の安全・安心を確保するために、安全・安心に関する技術ニーズ情報及び技術シーズ情報を把握し、目利き能力を有する機関によるマッチングの仕組みを構築するものである。このため、事前に定量的な数値目標として、成果目標(アウトカム)を設定することができない。</p>		<p>本予算を用いて、目利き能力を有する機関がマッチングを行い、その結果が安全・安心の研究開発に活用されることを成果目標とする。</p>					
	代替目標	代替指標	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標年度	目標最終年度
	<p>事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績</p> <p>目利き能力を有する機関によるマッチングを行い、その結果が安全・安心の研究開発に活用されることを成果目標とする。</p>	<p>令和2年度： ・専門人材等を活用したマッチングの仕組みについての調査・検討を実施できたか 令和3年度： ・専門人材等を活用したマッチングの仕組みについての調査・検討を実施できたか</p>	実績			1		
		<p>調査・検討の結果に基づいて、マッチングの仕組みを構築できたか 令和4年度： ・調査・検討の結果に基づいて、マッチングの仕組みを構築できたか 達成できた場合は1、達成できなかった場合は0とする</p>	目標値			1		
		達成度	%					
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込	4年度活動見込
	<p>令和2年度： WGを立ち上げ、シンクタンク立ち上げの報告書をまとめることができたか 令和3年度： シンクタンク機能を立ち上げることができたか 令和4年度： 立ち上げたシンクタンク機能により調査を行うことができたか 達成できた場合は1、達成できなかった場合は0とする</p>		活動実績			1		
			当初見込み			1	1	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込	
	-		単位当たりコスト					
			計算式					

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国及び国民の安全・安心を確保するために、安全・安心に資する科学技術において、我が国として伸ばすべき分野や補うべき分野、適切に管理すべき分野を明確化するものであり、国民や社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	我が国及び国民の安全・安心を確保するために実施するものであり、国が実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	安全・安心の確保に向けて、重要分野の把握を行うものであり、政策目的の達成手段として、必要かつ適切な事業であり、優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争入札により選定しており、支出先の選定は妥当である
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	一般競争契約による調達の結果であり、妥当である
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	国および国民の安全・安心の確保に係るものに限定している
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	不用率が高い主な原因は計画していた額よりも安価に契約できたことが挙げられる
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	多くの事業者が参加できるように役務内容を工夫している	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	不用率については、大きくなってしまったが、単位あたりコストは適切な水準になっている。	
	改善の方向性	事業者が幅広く参加できるような調達方法の検討や役務内容を工夫することに努める。役務内容と執行額を精査し、効率的な予算執行ができるよう努めた上で、事業の成果の検証を適切に行う。	

外部有識者の所見	
アウトカム(シンクタンク機能の獲得)が曖昧ないし不明確なので、実質的には随意契約と変わらない結果となっている。これを一般競争契約と称するのは、実態に合わないと思われる(一社応札でもある)。随契への変更もありうるのではないか。	
行政事業レビュー推進チームの所見	
現状通り	外部有識者の所見を踏まえ、必要があれば、調達方法の改善の検討をすること。また、引き続き事業の有効性・効率性・成果について適切かつ的確に検証し、予算の効果的かつ効率的な執行に努めること。
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況	
現状通り	外部有識者からのご指摘に従い、令和3年度(令和4年度も含む)の委託調査については、提案の内容を重視した企画競争方式で実施し、調達方法の改善を図った。 また令和3年度の委託調査において、予算の効果的かつ効率的な執行に努めることとする。
備考	
関連する過去のレビューシートの事業番号	
令和2年度	内閣府 - 新02 - 0013

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)

政策統括官(科学技術・イノベーション担当)
 10.8 百万円

委託【一般競争入札(総合評価)】

政策研究大学院大学
 10.8百万円

(シンクタンク機能の体制の設計のため、マッチングのケーススタディを実施。)

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で表情が分かるように記載)

A.政策研究大学院大学			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
役務費	人件費 調査費	10.8			
計		10.8	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	政策研究大学院大学	5010405004953	シンクタンク機能検証のための感染症対策及びサイバーセキュリティ調査	10.8	一般競争契約 (総合評価)	1		同種の他の契約の予定価格を類推させるおそれがあるため落札率は公表しない。